

令和3年8月26日

藤井委員

幾つかお聞きしたいのが、今日、報告資料を読ませていただいて、先ほどから様々議論が出ている学びの保障について、意外とあっさりと書かれているような気がしています。その裏にどれだけ大変なことがあるのかなということを考えながら議論を聞かせていただいたのですが、その中でまず、県立高校の生徒さんの家庭の通信環境について、ちゃんと整っているというところと、これはちょっと厳しいなという比率はどんな感じでしょうか。

高校教育課長

令和3年5月の段階で、実際にオンラインでの授業の試行をしたわけですが、その時点で、どの程度の生徒たちの環境が整っているのか、その辺りを把握させていただいております。全体でいいますと、モバイルがちょっと小さいなどということも含めると少し多くなってくるのですが、おおむね8割程度の家庭は、今の状況の中でもオンラインでのやり取りができるという状況がございます。ただ、それ以外の部分については、端末が足りない、家庭にWi-Fiがないなど様々な方がございますので、そこはフォローしていかなければいけない、そのような状況が見えてきているところでございます。

藤井委員

2割の方々のオンライン環境がないという状況で、貸与するなど様々な形でやっていると思うのですが、どちらかというと、教育長がお話しされたとおりで、私も全く同感です。一つには、例えば、今までも私立高校では、このコロナ禍前からオンラインを少しずつ始めていて、コロナ禍になってから相当やってきているのです。教育長の言葉のとおり、各学校で我が校、我が生徒にはどのような形でやっていったらいいかと様々工夫をしていますから、同じ年齢の同じ生徒が通っている私立の高校でもしっかり学べるところがあるのだろうと思うのです。最終的には費用だとか、いろいろな面でのバックアップがどのようになっているかという違いはあるにせよ、それならそれでどういう予算を組めばいいのか、そういった次の段階にいけるようになると思います。そういった意味では、県内でも様々な学校がありますから、ぜひいろいろなところの事例を、県教委としても具体的にいろいろな形で示し上げてもらいたいです。学校も、我が校の生徒に対して通信環境が一番合うのは何なのか考えていると思います。確かに授業をやるときも40分のオンライン授業がWi-Fiなしでといったら相当な金額がかかっていると思いますから、そういった意味では費用面でのバックアップや、具体の対応なども必要だと思います。ぜひその辺りを学んで、情報をいろいろな形で共有、御紹介等々しながら、進めていただきたいと思います。

先ほど来、議論があるとおおり、いわゆるコロナの終わりの意味の終息がなかなか見えない。一つには収めるほうの収束という意味で、ある程度少しは穏やかになるような、そのようなところが見えてきたとしても、Withコロナという形でコロナとしばらく付き合っていかなければいけないような、そういう状

況にあります。特に医療関係者の皆さんも一生懸命やっておられるし、今日も皆さん全員がマスクをして感染予防に努めてきているわけですが、様々な新しい形、新しい授業方法、今言いたみたいいろいろな形で進めていただき、神奈川県として学びの保障、学びの継続というのはこういう形だということをぜひ示していただいて、先ほど教育長が言われたとおり、安全・安心とコロナ対策もしっかりとやっていきつつ、子供たちの学びも保障していくという、この両輪だと思います。私自身もしっかりと支持させていただきたいと思うので、何か新しい方法をぜひ進めていただきたいと思います。

あと、Wi-Fiなど、そういう環境に至っては、やっぱりこれからの未来に立つ子供さんの話ですから、いろいろな形でバックアップしてくれるでしょうし、私たちもしっかりそれは支援していきたいと思いますので、先ほど言った新しいところの提案を、ぜひ各学校にも支援していただきたいということを要望して終わります。